
恋姫無双～謀将伝～

凶市場

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋姫無双〜謀将伝〜

【Nコード】

N4004T

【作者名】

凶市場

【あらすじ】

飲み会で死んでしまった主人公

とありあえず悪知恵を働かし目指せ天下統一（後ハーレム）で頑張ります

転生寸前

ゴロ〜ンゴロ〜ン

神side「おめでとう！あなたは私が神に成ってちようど十億人目の死者ですよ。記念に記憶を残して転生させてあげます」

俺side「ハア　ー！！！！」気が付いたら胡散臭い兄ちゃんが鐘を鳴らしながらふざけた事をいってやがる思わず叫んでしまった、死者つて俺死んだのか？

しかも転生でテンプレですかいなorz

神side「能力も2個ほど付けてあげるからね　次の世界では偉人に為れるかもよ、高橋　衛君」

俺side「えつと俺の名前は斉藤　智なんですけど」

神side「えーと？違うの？あくさては死神のやつ間違えたな〜じゃあ代わりにいってきてくんない」智side

マジかよ人生やり直せるなんてラッキーでも

「ん〜もう少しサービスしてくんない？」

神side「わかった能力を五個付けてやろうただし人外の力は駄目だぞ何がいい？」

智side「いや行く世界はどういう世界なの？それによって変わるんだけどあつ当然人に転生ですよね」

神side「うむ、確か三國志のような世界じゃ、当然人に転生じや虫や獣に成られてもつまらんからな〜」

智side

「三國志か…戦乱の世かならばまずはその世界の最強者と互角以上の武力と古今東西の知識と幸運MAXと漁色の才能と獣使いの能力をくれ」

神side「わかったついでに容姿も良くしといてやる、でわ行く

が

智side「ちよつと待つて俺の死因てなに？」

神side「急アル中じゃ」

智side

マジかよ人生飲み会でバカやって終わりかよorz

て落ち込んでたら穴が開いた

「お約束して紐無しバンジーですかー!？」

神side「やっと思ったかさて死神に説教しないとな」

転生直後（前書き）

短いです、すみません

（；-；）

転生直後

俺side「あうううだあう（転生できたのか？喋れない！？）」
しばらくは不便そうだなと考えていると

??side「あらう起きたのねう私の術、私が母上ですよもう
すぐ父上がやって来ますよう」

父sideドタドタ、バーン 「おおーその赤子が我が袁家の跡取りか！！」

と扉を壊すような勢いで三十歳位の男が入ってきた。

俺side「だあううあううう（袁家で術だと）」

袁術公路で…偽帝で孫策に殺されるやつじゃないかマジ泣けてくる
いやここは考え直そう途中まではハーレムでいい飯食ってたんだから死亡フラグを回避する為に行動しよう時間は有る！

転生直後（後書き）

読むと書くとは大違いですね m () m 短くて

行動開始（前書き）

考えている事を文にする事ができねー！
他の作者さん、いや作者様マジ尊敬するわ
駄文ですがよろしくお願いいたします。

行動開始

〈一年後〉

智 side

生まれてから一年たって同い年の兄弟がいる事を知った袁本初こと袁紹だただ……女の子だった？！

おまけに真名があった？！ 事はなに恋姫の世界ですか

袁紹はお馬鹿だから力を削いでおかないとなにをやらかすか解らないから

まずは人材から

〈三年後〉

今日は俺の誕生日だ。

一族全員や重臣達がうちの家に集合して俺を祝福してくるこの機会に袁家の嫡子の地位を固めて人材を増やそう

父「術、誕生日おめでとう」

一同「……おめでとうございます」「」

俺「父上、みんなありがとう」

父「何か欲しい物やしたい事はあるか？」智「うーん、母上に聞いたのですが、この袁家の跡取りはぼくだと生まれた時に言われたそうで、間違いないですか？」（さて言質を取るぜ証人は一族だ）

父（なんでそんな事を今聞いてくるんだ？）

「ああ、間違いないぞ」

智（ヨツシャー言質取れた！妾のやつこつちをスツゲーにらんでる、向こうに肩入れしてる連中も青く成ってるな（*ー））

「ならば跡取りとして田豊翁を教育がかり兼相談役として配属してください」

父「この年で跡取りとして自覚有るとはな、良いだろう。田豊に師事し袁家中興の祖となれ」

（もしやこの子は天才か？こやつなら三公どころか相国に成れるかも）

（二年後）

智 side

とりあえず田豊を配下にて情報収集の為に忍の部隊を作った。規模はなんと八千人！

智「あり得ねえなんでこの人数なんだ？」と言っていたら

田豊「袁家の跡取りなのだから当然ですぞ、本当は精鋭部隊を充てたいところですが新しい概念の部隊を言うことでしたので新兵の中から能力で選りすぐりました」

智（試しだから百人位で良かったのにどうしよ）

智「では部隊を三十九個に分けて十三の州の農業、商業、軍事について探らせてください」

「あと途中で珍しい物があつたら持ち帰るように」

田豊「わかりました」

（それにしてもこの二年間わしは公路様に何も教えられなんだ孔子、孫子はいかに及ばず様々な教本もまるで全て知っているように全で一読で理解されてきた最近では楊州の狐、袁家の太公望など呼ばれている

この二年の間に穀物の相場を常に調べていたと思つたら今度は商人の真似事を始めて袁家の財産を5倍に増やしてきた）

智 side

調子に乗って稼ぎ過ぎてしまった、このお金を使って袁縫（父）に三公の一つ司徒に成ってもらった。

ついでに袁紹を子供のいない袁成叔父の養子にして袁家本家から追い出した、まあ袁縫も元々そのつもりだったらしくすんなり行った親父が司徒に成ってしばらくすると俺に楊州淮南の太守をやれと言ってきた

おいおい六才のガキに太守をいきなりやらせるか普通？

交換条件として「太守では今の兵力では心許ない」と言ったら五万人に増やしてくれた（ ）！！

まあ実務の方は田豊に丸投げでOKでしょ、

基本的には屯田兵をやり流民達に土地を持たせて農民にしたり貝を使った肥料や唐辛子の粉末を使った殺虫剤等を教えたりしたあと蝗が黒っぽくなったら植物ごと焼き払うように命じた。

賊対策として村や街には伝馬を置き大きな街には千人づつ配置して即応体制にした。

ちなみに俺の城の兵は全員が幽州産の馬を与えられ騎兵にし淮南とその隣接地した土地なら二日間で行ける様にしたその数約二万人。おかげ領内には賊は居なくなつた。

行動開始（後書き）

恋姫キャラは次回辺りから出そうと思います

PSキャラ死んだり崩壊するかも？

人材発掘出発前（前書き）

上手くいかない文才、文才が欲しい
キャラ崩壊OKの人のみお読みください

人材発掘出発前

（四年後）

智side

四年の間に淮南は爆発的に発展し一群なのに青州と同じ位の人口になった俺の本拠地の人口に至っては百七十万人になった因みに落陽（首都）では百万位と言われている

まあ税金を安くして色街や商人を使って腐敗役人どもを粛正してつたらこうなっただけだね

因みに兵力は二十万を越えました

「なあ爺。」

「なんですかな公路様」

「俺は旅に出ようと思う」

「なっ何故に？」

「兵の訓練で千人位ならなんとか倒せるようになり一人で動いても平気になったから世界を見て回り来るべき時の為にだ」

「乱世に成るとお思いですか」

「ああ、漢王朝はもはや終わりだ十年の内には群雄割拠の時代が来る生き残る為に動かねばならぬ」

「でしたらここに留まり武官文官を集められたほうが良いのでわ？」

「いや、それでは人の和がとれぬ」

「天の時、地の利、人の和ですか？」

「そうだ！天の時は正確にはいつか解らぬが地の利は手に入れたあとは人の和、一流の人材だ」

「なるほど、自らの手で集めたいのですな」

「うん、田豊爺その間のことは任せたよ」

「分かりました」

田豊（まったく太守たる者が旅に出るとは、まあ今まで子供らしく遊んでいなかったから一年二年居なくても風評は問題ないか）
「ですが、まず袁縫様にお伺いを立てた方が宜しいのでは？」
「そうだな、手紙を書こう。」

智 side

一週後返事が届いた。
結果は旅に出る事は許されたが条件としてお見合いをする事を言われた、まさか十才でお見合いとはな、まあOKなんだかその為に落陽まで行くことになった

袁縫 side

袁術のやつが人材集めの旅に出たいと手紙で言ってきた、あいつはどこまで先を見ているんだ。まあ淮南の発展を聞く限り心配はいらないだろう
「ン、帰って来たか。」
「ただいま戻りました父上。」
「お帰り術、さっそくだがこれからお見合い相手の所にゆくぞ」
「分かりました、荷物を預けたらすぐに来ます」

コンコン

「術です、入ります」
「おお来たか、待っていたぞ」

智 side

荷物を預けて親父の部屋に入ったら親父以外に母と親戚達がいた、なんで？
父「ではこれより略式だが真名の授与式を始める」
はい？真名授与式？

父母「袁術公路よこれよりそなたの真名は智 さとるである、よい

な。」

智「えつと、はい」

父母「では名乗りをあげよ」

智「姓は袁、名は術、字は公路、真名は智です」

パチパチ

一同「おめでとございます」

母「ふふ、本当は五歳位でやるのだけでも智は太守として赴任したから今までできなかったのよ」

父「よし、これでお見合いに行けるな、ではさっそく行くぞ智」

智「はい」

母「頑張つてね」

??? side

「今日は娘のお見合い相手が来る日か、楊州の狐と呼ばれているらしいがどのような子なのだろうか？」

娘「とー様、なんか表情が固いですよ」

「んー、そうか？実はな今日はお前のお見合い相手がある日なのだよ」

娘「／／／／／」

女中「旦那様、袁縫様がおみえになりました」

「おおやつと来たか、では客間に御通ししてくれ」

袁縫 side

「待たせてすまなかつたな」

？「位や気にするな袁縫殿、その子が息子さんか？」

袁縫「ああ、さあ挨拶しなさい」

智「初めまして、自分は姓は袁、名は術、字は公路ともうします。」
？「私は董苑伯申だ、この子は娘の董卓だ」

董卓「董卓仲頼です初めまして」

智（かわいいくマジ人形みたい）

「初めまして董卓ちゃん」

董卓「まあ食事でもしながら話しましょう。月、母上を手伝ってあげて」

董卓「はい」

智「董卓様、確か貴方は清流派でしたね」

董卓「！？ ああそうだが」

智「宦官達と争うのを止めて何処かの太守になつた方が良いでしょうよ。」

董卓「負けると言うことかい？」

智「はい、董大將軍の事を見れば判ります、帝の信は宦官にあり、今の大秋人の曹騰殿が止めてしまえば冤罪の肅正が吹くでしょう。その前に。」

董卓「分かった、楊州の狐を、未来の義理の息子を信じよう、故郷の天水の太守に成りましょう」

智「それと正式な婚約はもう四、五年たつてからにしましょう、自分はこのあと旅に出る予定でして縛つたままにするのは良くないと思つのです」

袁縫「まあ今日は顔合わせのつもりだったしかまわないだろう？董卓殿」

董卓「わしはできれば婚約して欲しいのだが、しかたあるまい。」

（無理強いして逃げられたら大変だしな、しかしこの年で領地経営だけでなく政争にも明るくとは）

コンコン

董卓「とー様お食事の用意ができました。」

董卓「おおできたか、では移動しましょう」

その後、董家で楽しく食事をして董卓ちゃんと二人で日がくれるまで遊んだ。
別れ際にお互いに真名を交換した。

人材発掘出発前（後書き）

長く書けない？

人材発掘出発（前書き）

前話のサブタイトルを変更しました。言われてみて人狩では奴隷狩りみたいだと自分でも思いました。キャラが崩壊してるかもしれませんがそれでもOKな方のみお進みください

人材発掘出発

（二年後）

司隸河東郡解にて

賊side

「てめえら！これからあの村を襲撃するが、いつも通り男や老人や子供は皆殺しで女は好きにしていいいが金目のものは残さず奪い取れよ！」

「『ウィース』」

「ヨツシャー行くぜ」

村side

朝までは今までどおりだったんだけど昼前位にあいつらがやって来てここは地獄に変わった。

男達は立ち向かったが多勢に無勢、山賊共は三百人位はいてこちらには五十人位皆殺しも時間の問題だ。

??side

男「いいか、絶対ここから出てくるんじゃないぞ！」

女の子「うん 分かった」

私は兄にそう答えながら多分もう会えないと思いい声も出さずに泣いていた。

しばらくすると兄の叫び声が聞こえ、思わず家のなかから出てしまった。

そこには血を流し動かない兄がいた。

賊A「おつ、かわいい嬢ちゃん発見、クへへ」

賊B「俺たちで可愛がつてやるよ、ククク」

賊C「好きだねお前からまだ發育してないのに俺はあっちの方を探して来るよ」

女の子「ひっ」

恐くて逃げ出したいのに足が言うこと聞かない、賊達は私の手足を押し込んで服を無理矢理剥ぎ取った。

「イヤァー!!?」

賊「うるせい! 黙りやがれ」

バキッ

私は殴られて気を失った

智side

はあ、益州までいったのに張松や法正と言った将を見つけることができなかつた一年近くかけたのに、その後、西涼をまわり天水の太守に成つていた董苑様の所に顔を出して落陽に戻り今は幽州を目指して司隸を移動中

董苑様の所で馬鹿デカイ馬? (某漫画に出てくる松風) と左右に矢筒がついた鞍をもらった

史実では董卓が使つてた鞍である

ちなみに旅費は各地に散らばつた配下の忍からもらっています。

「最近、賊が増えてきたな、けど黄布党は五年位あとのはずなのに。」と独り言を言っていたら前方に黒煙が立っていた、

「火事!? いや賊共か! 松風!」

と叫び松風(馬)を駆り村に急いだ。

案の定、賊共が稼業に勤しんでいた。

取り敢えずこのまま馬上弓で賊共を殲滅していくか。

賊「グッハ」

賊「ゲエ」

賊「どうしギヤアー」

智「オラオラどうした無抵抗なやつとしか闘えないのかよ。胸くそ悪い事をしやがって。」

賊頭「くそ、騎兵とはいえ一人だぞ、囲んで一気に潰してしまえ。」

(なんで？馬上で弓が使えるんだ？)

智「てめえが頭か！死ね！」

賊頭「ヒツ、ギヤアー！」

賊「頭が殺られた逃げろ！」

智「逃すかよ！」

後を見せた賊から矢で脳味噌ぶちまかせてやった。

智「あらかたかたずいたか？」

？「イヤーー！！？」

智「まだいやがったか！」

急行して賊を二人殺した

智「この子はなんとか無事か、一応全員の確認するか。」

兄「うっ、」

智「まだ息があつたか　くそ、致命傷か。おい！何か言い残す事はあるか？」

兄「うあ　愛紗に強く生きろと」

智「分かった必ず伝える」

兄「あ　り　が　」

智「死んだか、この子が愛紗だと良いのだが。他に助かる人はい

るかな？」

智「結局この子のみ残して全滅か　この地の太守は何をしているんだ！」

取り敢えずこの子を起こさないと

愛紗「うーん、ツハ！？」

智「おお起きたかい？体は大丈夫か？」

愛紗「あのあなたは？」

智「とりあえずこの服を着てくれ、裸のままでは話ずらい。」

愛紗「へッ　キャアー！！！！（／／／／／／／）」

智「落ち着いた？」

愛紗「はい　すいませんでした」

智「君の名前は愛紗でいいのかな？それとも他の子かな？」

愛紗「えっ　はい私の名前は関羽雲長で真名は愛紗です」

智「そっか　まずきみの村は関羽を残して全滅だったよ」

愛紗「！！　そっそうですか　うう、ヒック、へッ／／／」

俯いて泣き出す関羽の頭を抱いてあげる

智「お兄さんからの伝言だ『愛紗強く生きる』と『ありがとう』だ」

愛紗「すいません、このまま　胸を…貸し…て…下さい」

数十分後

智「少しは落ち着いたかい？」

愛紗「お恥ずかしい所お見せしてすいません。」

智「いいよ気にするな、所でこの後君はどうするの？」

愛紗「……兄と二人天涯孤独の身ですので……いく宛は何処にもないです。」

智「ならば、俺のものにならないか？」

愛紗「……／＼／＼はっ初めて会った人といきなりけっ結婚するのは。」

智「そうじゃない、俺の所で働くか？つて意味だ」

愛紗「えつとっはい！死ぬ気で頑張ります！」

智「よし、ならばこれより俺のことは智と呼んでくれ」

愛紗「はい 私のことは愛紗とお呼びください。」

智「では愛紗よ、これから淮南に向かうぞそこでおまえには将見習いをやってもらう」

愛紗「はい？」

智「ああ、すまん俺の名前は袁術公路だ。淮南の太守をやっている」

愛紗「は？」

太守しかも袁家本家だと！

智「大丈夫、愛紗には才能有りそうだから。」

愛紗「分かりました頑張ります！」

ふう、やっと一人ゲットしたぜ。

人材発掘出発（後書き）

すみませんスイマセン愛紗の口調や態度がおかしいですね。何度か直したんだけど駄目でした。

スイマセン

荊州にて（前書き）

だんだん主人公のキャラさえも変化してきた。
書くのが苦しく感じられる。。。。（ノ、）

荊州にて

（淮南）

愛紗を連れて帰ったら田豊爺が大騒ぎした。

まあ将来はともかく今はただの村人だもんね、人材探しとか言いながら好みの女を探してただけと思われても仕方がない。

あと口調が昔と違って悪くなったと言われた、確かに一人旅のせいか転生前に戻っていたみたいだ。

しばらくすると賊の討伐やらで愛紗が頭角を出して来てその実力はまだ荒削りながら並みの武官と打ち合える位になった。

俺はその間この二年間に溜まっていた政務の問題点を片して行った。農業では最近冷害が起きているそうなので畑を減らし水田作ることを奨励した、もちろん水位を普通より深くして冷害対策をした。

商業では特に問題はなかった

軍事では最近、荊州から流れてきた江賊が暴れているらしい。

久々に知識を使い信長の鉄鋼船とヨットの原理を利用した快速小型船を作りました。また酒を蒸留して作った火炎瓶ならね火炎壺でこんがり丸焼きにしたりして政務に勤しんだ

（二年後）

政策はほぼすべて成功し淮南の土地は良くなって行った。

智「なあ爺、また旅に出るよ」

田豊「分かりました。お気をつけて行ってらっしゃいませ。」

愛紗「そっそんなに簡単に決めて良いんですか？田豊様！。仮にも太守ですぞ。」

田豊「良いんですよ、関羽、智様は何が必要かそつでないかをしっかり把握してらっしゃる。」

田豊「貴女を連れて来たか時も似たような感じでしたよ、ほっほっほ。」

愛紗「くくく！！」

智「じゃあ行ってくる。」

愛紗「せめて行き先位は教えて下さい！」

智「そつ怒るなよ隣の荊州の長沙だよ。」

愛紗「長沙と言いますと最近、呉郡から移動した孫堅の治める土地ですね」

智「そつだよ、江東の虎を見学しようと思っつてね、では行ってくる」

????side

襄陽南部

？「はあ、はあ、くそ劉表め、祝宴の帰りに山賊を使って装い襲つて来るとは迂闊だった」

孫権「ゴホオツゲホツ」

智「よしなんとか息を吹き返したぞ」

白山「シャー」

松風「ブルル」

智「どうした白山、松風　！賊か！」

賊「ちつ、旅人に助けられてたか悪運の強い。」賊「小僧。貴様には怨みはないが見られた以上一緒に死んでもらう！」

智「ざけんな！カスが！やれ松風！」

松風「ブルル！」

賊「なつうつ馬がギヤアー」

智「よし！、皆殺しだ松風」

近くの賊は松風に潰され、逃げ出した賊は後から弓で射殺した。

お掃除終了

さて、さっきの子は気が付いたかな？

まだかまあ揺すって起こすか？

「　！冷たい、腕がやれてたのか、取り敢えず止血してどっか横になれる所は？　しかたないあつちの草むらで。」

服が濡れてるな、可哀想だけど脱がしてと

（翌日）

孫権 side

暖かいなあ パチリ

孫権「くく？！？！？／／／」

起きたら知らない人の腕の中にいた、しかも裸で、何が起きたの？

智「ん？ 起きたかい？」

孫権「あの、その痛」

智「ああ腕は動かさない方がよいぞ、血が大分流れたから直ぐには動けないぞ」

孫権

そっかあの時私は敵にやられて河に落ちたんだ。

「あの助けていただきありがとうございます。」

智「気にするな、困ったときはお互い様と言うじゃないか。」ニコッ

孫権「くく／／／」

良い笑顔だなあ 私と同じ位なのに凄く頼りになりそうだ。

智「所でそろそろ服も乾いただろうから向こうで着替えしてくるね」

さすがに裸の女の子を抱いてるだけってのは辛い

孫権「私は姓は孫、名は権、字は仲謀、真名は蓮華と申します。」

智「ん、真名まで許してくれるの？」

蓮華「はい、命を助けてくれたのですから当然です」

智「そっか 俺のことは智と呼んでくれ」

この後松風に相乗りして近くの街まで蓮華を送り届けた。

この時孫堅の人となりを蓮華から聞き出した。まるっきり孫策と同じようだった。

別れ際に蓮華が辛そうにしていたので頬にキスをして「必ず会いに来るよ」と言って別れて淮南に戻ることにした。

荊州にて（後書き）

次回辺りで原作開始にしたいと思っています
できるかな？

愛・桂・愛落（前書き）

なんか書いてキャラが勝手に喋りだしてる？
変な感じですが宜しく？

愛・桂・愛落

（淮南）

蓮華と別れた後、淮南に戻ると親父から使者が来ていた。俺が揚州州牧に着任する事に成った知らせであった。

田豊「おめでとございます。」

智「十四才いや十五才か太守に成ってから九年か、ずいぶん掛かったな。」

愛紗「何を言われるのですか、智様。普通は太守に成るだけでも一生ものです。」

田豊「さよう、現にご兄弟で在らせられる袁紹様でさえ先頃南皮の刺使に就任されたばかり、他の州牧に推挙されたのは劉虞様や劉焉様などほとんど皇族様方のみですぞ」

智「それもそうか。」

愛紗「そうですとも」

田豊「ところで新たに領地になった土地の豪族達がお祝いの品をもつてやって来てますぞ」

智「では宴席を設けなければならないな。」

田豊「はい。ところで智様、酌を進められたら断らないようにして

「くださいな」

智「ああ、分かっているもう年を理由に断れないのは、はあ」

愛紗「智様は何故、お酒をお飲みにならないのですか？」

智「理由はないよ」

まさか前世の死因が急アルなんて言えるかよ

愛紗「では私も一緒に飲みますので頑張りましょう」

田豊「関羽、お主飲めるのか？」

愛紗「いいえ、飲んだことは有りませぬ」

田豊「ほ、ほどほどにな。」

（翌日）

痛い頭を掻きながら昨日の夜を思い出そうとしてもできなかった。記憶が飛んでいる、ただ分かっているのは寝具の中で隣に眠っている裸の愛紗、しかも破瓜の血の後付き。

俺、承諾して犯しんかな？強姦だとしたら嫌だな。

愛紗「ん〜」 あっおはようございます、ご主人様

智「おはよう愛紗、身体は大丈夫かい？」

ほっどうやら強姦じゃないみたいだ、良かった〜でもご主人？

愛紗「はい、まだ何か入ってる感覚はありますが大丈夫です」

智「無理はするなよ、なんなら今日の調練は休みでも構わないぞ」

愛紗「はい、ありがとうございます」

優しいなあご主人様は

「昼、謁見の間」

田豊「さて、智様領地が楊州全域に広がりましたが何か変更すべき事はありますか？」

智「まずは人口の調査と賊の調査だな、それ以外は越族の対策だな」

愛紗「人口と賊は分かりますが、越族とは？」

田豊「楊州、交州、荊州にまたがる、少数異民族の総称じゃて。」

愛紗「それなら武力で従わせれば良いのではないか？」

田豊「歴代の交州刺使はそうしてきた、だから交州は安定しなかったのじゃ。油断して刺使に就いたものはすぐに内乱になり罷免されてきた。」

愛紗「それは交州にてでしょう、ここ楊州には関係ないのでは？」

智「いや、愛紗、無理に治めるなら越族はここでも反抗するよ。だから彼らの身内に治めるさせれば良い。越族の者に県令を任命して

税だけ納めさせる！」

田豊「ですが、上手く行きますかな？、越族と言っても単一ではなく百近くの部族があるので。」

智「ああその通り、だから部族三百人に一人の割合で武道大会にでももらい上位者から好きな街の刺使に任命する、期間は二年間で、もちろん反抗する部族は潰すさ。」

田豊「なるほど、それならば大きい部族は有利だし小さな部族でも機会はある。三百人以下なら無視しても実害はなく、しかも人口の調査や人頭税も徴収できる。ですが朝廷が許しますかな？」

智「フン、西涼の馬騰と言う例があるぞ」

田豊「おお！そうでしたな。」

智「それとしばらくしたら本拠地をここ九江の寿春から長江の秣陵に移転し名前を建業に改めるぞ」

愛紗「なるほど長江を使い州全体に素早く軍の展開が出来るようにするのですな。」

田豊「ほっほっ、関羽もだんだん武将らしくなって来ましたな。」

智「ああ頼もしい限りだ」

愛紗「~~~~（/// / / /）もう二人してからかわないで下さい！」

田豊「ほっほっ、じゃが冗談ではないぞ、今までは賊の討伐とかではあったがこれからは軍隊じみてるだろうからな。欲を言えば軍師が居てくれると良いのだから、さすがにこの年で陣中は厳しいものでのほっほっ」

智「おいおい爺、爺にはまだまだ頑張つて貰うつもりだぞ。」

田豊「いえいえ、さすがにもう無理ですぞ、政務の方も後五年位が関の山ですじゃ。そこで智様、もう一度お見合いをしてほしいのじやがどうしやるう？」

智「どういう事だ？」

おいおい愛紗と結ばれた？日の翌日にこれかよ？

愛紗がこつちをにらんでるよ。

こつちだつて今聞いたんだよ！！

田豊「なに名門袁家の当主となれば側室の十や二十人位は当然ですぞ。それに相手は冀州の名門荀家の才媛ですぞ、女として気に入らなくても軍師もしくは文官として側に置いていただきたい。」

智「ふむ、つまり爺の後継者候補と言つわけか、名前は？」

荀家だとまさかあの王佐の才と言われる

田豊「その通りですぞ名は荀イク文若ですぞ」

智「いつ会つのだ。」

袁紹の所に行くんじゃないやなかつたのかよラッキー

田豊「来週にでもこちらにやって来てますぞ。」智「分かった。席

の準備は任せるぞ」

田豊「お任せください。では準備があるので失礼しますじゃ。」

愛紗「では私も兵の訓練がありますので」

智「ああ、愛紗は少し待ってくれ。」
誤解してるなら解かないとな

愛紗「ご主人様、私はいずれこうなる事は分かっていました。ですから私の事は気になさらなくても大丈夫です。ですが 私の事を捨てたりしたら赦しませんからね」
ニッコリ

智「あつああ当然だ。愛紗を捨てるなんてあり得ないよ。」こつ恐ええ、般若だよマジで

愛紗「なら良いのです愛人の十や二十人は当たり前だそうですから、失礼します。」

（翌日朝議）

智「爺！、さしたる懸案もない事だし俺は文若を迎えに行こうと思っ」

田豊「確かにこれと言った懸案は無いですが、さすが君主自ら迎えに行くと言つのはどうじゃろっ？」

愛紗「代わりに私がいきましょう。」

智「まあ待つて、ただの嫁候補なら行かないさ愛紗にいかせるよ、だか文若は家臣となるかも知れないんだよ、愛紗との間に上下関係を作りたくないからね。」

愛紗「そう言う事でしたら」

ご主人様は私の事をしっかり考えてくれてる

田豊「まあお見合いしてくれるだけ良いですからな。ただもう家を出発したあとですぞ。」

本当は外に出ただけでしょうが上手く可能性が上がるのでしたら。

智「構わないさ、会えなければ馬車がつく前位には戻って来るさ。

松風や白山を外に出してやりたいしな。」

〈数日後徐州〉

荀「何で私がこんな目に会つたのよ！。あの腰抜けチンコ共め」
腰抜け達への怨みごとを呟きながら私は馬車を飛ばした。

賊「キヤツハツハツ、どうしたお嬢ちゃん、鬼ごっこはもう終わるか？御者や護衛の人みたいに命ごえするかいすれば命は取らないでやるよ。」

荀「とか言つときながらさっさとあの腰抜け達の首を飛ばしたのはあんた達でしょうが！」

賊「な〜に女なら犯した後に売れるからな、本当に殺さないさ、安心しろ」

苟「最つ低ね！、あんた達にやられる位なら死んだ方がましよ！！」
本当最悪、男なんてそれしか頭に無いんじゃない。今賊が乗っている馬だつて元々護衛が使つてたやつじゃない、無能なだけでなく足まで引つ張るなんて！！クソクソクソ

賊「じゃあそろそろ終わりにしようか、車輪をちょいと。」
苟「なつ何をす キヤアー！！！」
痛つい、馬車から放り出された衝撃で身体が動かない。

賊「へっ、手間かけさせやがつて、ホギヤア」

智 side

「アゝ ララン」 「久しぶりの一人旅良いねえ。そろそろこの辺りかなすれ違つとすれば、白山、近くに馬車がないか飛んで見て、」

白山「キャシャー」

智「ん？ あつちの方に居るのかずいぶん街道筋から外れてるな。迷つたんかな？ まあ良いや松風頼むよ。」

松風「ブルル」

智「またかよ、この賊共がぁー！！」
馬車が凄いスピードで移動してるのが見えたら隣の騎兵がいきなり車輪に棒を嵌め込み馬車が横転し御者の人がぶっ飛んだ。賊決定！例のごとく弓で射殺してやった。

智「おい、大丈夫か？」

苟「ツ〜！動かさないでよ馬鹿！」

智「おっその元気なら大丈夫そうだな、ん！肩がずれてるな。」

苟「ええさつき肩から落ちたから脱臼したのね。ツウ〜」

智「ここから街までかなり距離があるしその肩では馬にも乗れないな。仕方ない、おい君上着を脱いでそこに座って。」

苟「はあ！！、いきなり何を言ってるのよあんた、まさか助けた御礼にやらせるていうのこの変態！だから男は嫌のよ！少し顔が良く腕がたつからって全部思い道理になると思ったら大間違いよ！ツウ〜！」

智「あ〜あ、興奮するからだ、まったく治療の為に脱げて言ったんだよ」

苟「フツフン、なら始めからそう言えば良いじゃない、まったく。これだけ罵つても顔色を変えないなんて何者なんだろう？」

智「それじゃイチニイサンで治すよ。」

苟「分かったわ、速くしてちょうだい。」

あれ？男の嫌な臭いがしない？甘い匂いだ！なんで？

智「ん、分かったいくよイチニイ！」ゴツキン！

苟「来！！！！？」

痛みで声も出ない！こいつ意趣返しか！

智「こつすると余計な力が抜けてきれいにはまるんだよ、ごめんね。」

荀「ツツ〜！まあ私の為にやってくれたんだから良いとして。馬車は車軸が折れてるからもう無理ね。取り敢えずお金だけでも取り出して、あなた私に雇われなさい、前金でこれだけ渡すわ目的地に着いたらこの倍は払うわよ。」

智「いらんよ、それよりも一雨来そうだ移動するぞ、白山近くに雨がしのげそうな場所を探してくれ、松風行くよ。後君この薬を飲んで、はい水。」

荀「えっ？いらんいの？つて変な薬じゃないでしょうね、これ」
普通の村人なら十年は遊んで暮らせる額よそれをいらんなんて、おまけに薬までくれるなんて。

智「ただの痛み止だよ……よし飲んだな、おっ白山も見つけたようだし行くぞ。」

荀「キャツ、下ろしてよ恥ずかしいわノノノ」
いきなりお姫様抱っこ恥ずかし過ぎる。

智「駄目だ、普通に乗ったら肩が痛くて落馬するぞ、それに誰も見ていないよ、行くぞ。」
脱臼しといて良くこれだけ動けるな。

（洞窟内）

智「ふう、なんとか本降り前に着けたな。」

荀「ええ良かったわ」

智「しつかしこの分だと今夜はここで夜を明かさないと。冷えてきたし一杯飲むかい？」

荀「変なことしないと誓うなら頂くわ。」
もつとも襲われたら防ぎようがないけどね。

智「しねえよまったく命の恩人に対して失礼な。」
近くの豪族の娘だろうけどなんて口の悪い娘だ

荀「なら頂くわ。」

（二時間後）

荀「アハハ、そんなのね旅をしてるとそう言うことがあるのね」
面白い、こんなに無邪気に笑えるのは何年ぶりだろう。

智「そうなんだよ 同じ魚なのに地方によつて意味合いが違ってたりとかさ」

こいつなりは十四才位だけど知識量と知的欲求は半端ないな。真綿が水を吸うがごとくってやつだな楽しい。

荀「はあ、あんたにもつと早く出逢えてればな、あんたをどこかの県令にしてもうすぐ来る乱世の中で天下取りを目指したかもね」

（／／／／／／／／／／／）

智「今からでも遅くわ無いだろう？、目指して見ないか天下を。」
こんな所にこれだけの逸材がいたなんてな。

荀「無理よ！　私はね、お見合いの為にある名家に行く途中だったの私が生きていて貴方の側に居たら絶対に潰しに来るわ、面子を賭けて！」

そうもつと早く出逢えてればこんな気持ちにならなくて済んだのに。

智「ふざけんな！例えどんな名家だろうと、何万人来ようと気に入った奴を護らなくて何が武人だ！」

荀「（／＼／＼／＼／＼）その言葉信じて良いのね！！」

智「おうよ！」

荀「分かったわ、これからよろしくね旦那様。私は家も親も捨てる！貴方にこの身も心も捧げます！」

智「分かった！よろしくチュ」

喋ってる途中でいきなりキスしてきた。

まあ良いやこのまま食べちゃえ。

（翌朝）

荀「はあ、」

失敗した、その場の流れに身を任せてしまった。

どう考えても二人だけで天下取りは無理よね。お酒のせいになかった事にするかそれとも仕官先までつれて行くか？どうしよう。

智「ん、おはよう 昨日は激しかったね」

荀「ななっなにを朝イチから言ってるのよこの種馬は!!」(〃〃〃
/〃〃〃)

智「んー、おつ雨は上がったみたいだぞ。早速出発しようか近くな
んだる目的地は?。」

荀「いいえ、目的地は少し遠くて楊州は寿春よ」馬なら2日位だもの

智「はあー!!」
なんで(〃〃〃)?

荀「急に大声出さないでよ馬鹿!耳が聞こえなくなったらどうすん
のよ!。」

やっぱり名門袁家を敵に回すのは怖いわよね、私の見込み違いか。

智「じゃあもしかして荀イク文若か?」

猫耳フードはどこにいったの?

荀「なっ!どうして私の名前を知ってるの?」

智「俺は袁術公路、真名は智だ、これからよろしくな」

荀「アハハ、荀イク文若、真名は桂花よ 智、ふつつかものですが
これからも宜しく願います。」

良かった、あれ?涙が止まらない?

智「アハハ、それじゃあ結納の挨拶だよってなに泣いてるの?」

取り敢えず抱き締めてやった。

桂花「うるさい！もっと強く抱き締めなさいよ！…！」
涙を流して喜ぶなんて恥ずかしいじゃない。

智「寿春に着いたら俺の家族を紹介するよ」

桂花「うん　これから天下取りに邁進するわよ！」

愛・桂・愛落（後書き）

書いてる自分が信じられない。

交州調略（前書き）

短いですすいません

交州調略

（半年後建業）

愛紗「ご主人様！大変です。」

桂花「何よ、五月蠅いわね。」

田豊「どうしたのじゃそんなに慌てて。」

愛紗「交州にて越族が大規模な反乱を起こし太守達を追放しました！」

智「やっと起きたか、よし朝廷に我が領内の越族より鎮圧を任せて欲しいと言っていると伝えよ、そして領内の越族には内応してないなら鎮圧を手伝えと伝えよ」

桂花「畏まりました」

愛紗「ご主人様はこれを予想されてたのですか？」

桂花「馬鹿ね、あなた」

愛紗「ぐっ、なんだと！」

田豊「半年前、越族がどこに分布しとるか覚えておるか？」

愛紗「確か楊州と荊州の南部、交州全域でしたはず」

田豊「そうじゃ、つまり智様の政策により楊州の越族のみ優遇される形になった、当然他の越族は不満がたまる一方じゃ」

桂花「そうなれば荊州や交州で反乱が起こるのは時間の問題よ」

愛紗「なるほど」

田豊「そして儂等が楊州の越族を使い鎮圧に向かい交州を事実上支配しその後交州州牧の地位をてにいれるのじゃ」

智「それに反乱した部族の内には俺の命令で反乱に加わった部族もいる、そいつ等から情報を貰い反抗的な越族に楊州の越族をぶつけ俺達はその従順な越族とぶつかるふりをする、後は」

愛紗「後は？」

智「荊州がどうなるかだな」

田豊「ふむ、確かに州牧の劉表殿と南部を治める孫堅殿の関係は険悪ですな」

智「そう、弱兵しかいない劉表、精鋭ながら越族と言つ内患がある孫堅、どちらも荊州の覇権が欲しいが決め手がない」

愛紗「そこでこの越族の反乱ですか」

智「そう、劉表が反乱と呼応して孫堅を倒すのかそれとも孫堅が反乱を鎮圧して劉表に襲い掛かるのか」

田豊「どちらにしても荊州は荒れると言つことすな」

智「ああ、だがまずは交州だ、反乱の規模や兵力、内心の確認、朝廷や十常寺に対しての賄賂、やる事はたくさんあるぞ」

こうして袁家に交州支配 が達成されたのでした

交州調略（後書き）

愛紗がまるで華雄の様になってしまった。
両者のファンのかたごめんなさい

虎雌伏前（前書き）

原作開始まで遠い、こんなにかかるものなのか。
短いです。これからたぶん短いのが多くなると思いますがすいませ
ん

虎雌伏前

交州越族の反乱は三ヶ月掛からずに鎮圧できた、むしろその後の朝廷工作の方が時間がかかった位だ

（建業会議室）

智「なんとか交州州牧の地位をてにいれたな時間がかかった」

桂花「まったくです、十常寺の強欲玉無しジジイ共が色々難癖付けて来たせいですね、さっさとくたばれば良いのに」

田豊「じゃが結局は智様におさまったのじゃから良いではないか」

桂花「はん、結局なりてが他に居ないと分かったから引いただけでしょういればまだ賄賂を要求し続けたわ、まったく玉と一緒に性根まで腐れ落ちてるんだから」

智「誤算だったのは荊州の越族と劉表だったな」

桂花「はい、まさか交州の鎮圧が速すぎて荊州の越族が反乱しないとは思ってもありませんでした」

智「ああだがその芽は未だに眠っているから良いさだがまさか劉表が普通の状態の孫堅に手を出すとはな勝算はあるのか？ないだろう」

田豊「十中八九有りますまい、恐らく情報の間違いが原因でしょう」

智「フン、策士策に溺れるかぎりぎりを狙ったが失敗し最悪の展開か劉表にとっては」

桂花「はいまさに虎兇を得ようとして虎の尾を踏みましたね」

愛紗「ですがまだ決着はついてはいません、兵力だけなら劉表殿の方が多いのですから」

智「だが優秀な武將がいらない、まともにつかるなら孫堅の勝ちだ」

桂花「もし劉表に勝ち目があるなら孫堅の性格ですね」

田豊「そうじゃな孫堅が深追いした所を罠にかけて位じゃろつて」

智「そうなることを期待しておこう、さしずめ次の相手は孫堅かよし偵察に行ってくる」

桂花「お一人ですか？」

愛紗「あー桂花いつものことだ、ご主人様は軍を率いる時以外独りで行動するのだ」

田豊「ですが君主らしくそろそろ自重して欲しい所じゃて」

智「あーつつさい、これがたぶん最後さ、好きにさせる」

桂花「必ずお戻りくださいね、智様」

智「分かっている、それでは行ってくる」

（荊州襄陽南部）

孫堅「くそ、黄祖の奴、普段は突撃一辺なのに今日は絶妙な伏兵をして」

黄祖「グワツハツハ、今日こそその首をはねてやるぞ孫堅！くらえ我が剛弓を！」

孫堅「！グツ、ちっこれまでかだがこの首は貴様にはやらん！ハツ」

黄祖「逃げれたかだが毒矢は確かに孫堅に刺さったまず助かりはすまい、孫堅を撃ち取った事を全軍に伝えよ、これより孫家殲滅を開始する」

孫堅「なんだ目が霞む黄祖の奴め卑怯にも毒矢を使ったのかももう少しなのに」

虎雌伏前（後書き）

仕事が忙しくなりそうでしたばらくは短い文になりそうです

虎雌伏（前書き）

口調が定まらない。

虎雌伏

〔荊州襄陽南部〕

智「田豊爺の予想どおり、史実にどつりに進んでいるか」

只今黄祖vs孫堅の戦を見学中 史実どつり孫堅敗退

智「これで孫呉の勢力は一時的にも内に入るな、どう組み込むかな
取り敢えず孫堅を助けよう」

近くの山村村長宅にて孫堅療養中、毒矢を受けたらしく解毒剤と睡眠薬を飲ましている。

〔半月後山村〕

孫堅「ううーん、身体がだるい、ここはどこだ？」
気がついたら私は寝台で寝ていた

智「ここは襄陽の山村だよ、お前さんは毒矢を受けて危うく死にかけてたんだよ」

孫堅「山村 戦はどうなった！」

智「半月前に終わったよ、劉表の勝利で」

孫堅「半月前 私は半月も眠っていたのか」

智「ああそつだ、酷い毒でな十日余りは熱が下がらない状態で死に

かけてたんだよ」

まあ睡眠薬で眠らしてたんだがな

孫堅「そうか、お主は命の恩人という事か、私は長沙太守の孫堅だ、何か礼をせねばなるまい」

智「気にするな、それよりも身体を治せ」

孫堅「それでは私の気がすまない長沙に戻ったら相応の礼をする」

智「それは無理だ、長沙はすでに劉表に落とされた」

孫堅「なっ！！雪蓮いや孫策達は無事なのか？助けに行かねば」

智「落ち着け、今の身体ではかえって足手纏いだ」

孫策は無事らしく一族はまとまって長江を下っているそうだ、このままいけば徐州か揚州に行く事になるだろう」

孫堅「そうか、たぶん呉郡に行こうとしているんだろう、我等孫呉の故郷だからな」

一族が無事と聞き幾分落ち着いたようだな

智「呉郡に行って何かつてもしくは支援者はいるのか？」

孫堅「いや居ないな、また一豪族として力を貯めて乱を待つしかない、悔しいが最早私の代では太守どころか県令さえ無理だろうな」

力なくうつむきやがって本当にこれが江東の虎と呼ばれた女傑か？

智「孫堅、お前はどんなつもりで勢力を広げていたんだ？」

孫堅「私は 私達は賊や悪徳官吏から民や一族を守る為に力を求めたんだ」

智「フン、ならば孫堅、俺と賭けをしないか？」

孫堅「賭け？ なにを賭けるんだ？」

智「あんたはこのまま死んだことにして一年間の間にあなたの子供を俺の女にできるかどうかだ
できたら孫一族は全て俺の配下にする、できなければ何処かの太守の地位をやるう」

孫堅「お主、なにいつてるのじゃ？」

太守にしてやるで、この男、何者なんだろう

智「ああそういえば名乗ってなかったな俺は姓は袁、名は術、字は公路だ」

孫堅「なっお主が楊州の狐か！」

確かにこの男なら私を太守にする位はできるだろう

智「どうだい賭けてみるかい？」

孫堅「 いいだろう、その話乗った！」

どうせどこかの勢力に入らなければ干上がるだけこいつと娘が一緒になれば孫家は安泰だしなれなくても太守になれるなら損はない

智「ではこの一年間は袁家で客将をして貰う仮面を着けて名前を紀

霊と名乗ってくれそれと俺の真名は智だ」

孫堅「分かったただか良いのか真名まで教えて」

智「賭けに乗ってくれた礼だよ」

孫堅「そうか、いやむしろ命の恩人なのだから私の方から教えねばな、私の名前は姓は孫、名は堅、字は文台、真名は虎蓮だ、虎蓮と呼んでくれ」

智「いや結果が出るまでは紀霊呼ばせて貰う」

虎蓮「分かった では暫くやつかいになるよ」

こうして江東の虎と呼ばれた孫堅は紀霊と名を変えて袁家の客将になった

虎雌伏（後書き）

長く書けなくなってきた

孫家吸収前

（半年後呉郡）

蓮華「姐さま！

袁家から使者が来たとは本当で すか？
怖いまるで戦場いる姐さまだ

雪蓮「孫策」 「ええ本当よ 」

蓮華「どついう内容でしたか？」

冥琳「周瑜」 「孫家の将と兵及びそれに連なる者全てを率いて建業に来るようにと」

蓮華「それはどついうつもりで？」

雪蓮「どうもこうもない！

おおよそ孫家を潰すつもりでしょうよ！」

冥琳「だが行かねばそれを理由に攻められて孫家は終わる、他の地に行こうにも半端な名声が邪魔でできない兵もいるしな」

くそ、私の失敗だもつと早くに恭順の意識を伝えていれば客将として力を貯める事も出来たのに

雪蓮「そうね、

フーまったく母さまが死んでから孫家はどんどん落ちぶれて行くわね」

冥琳「仕方ない、それだけ我々は虎蓮さまに頼っていたんだろっ」

確かに離れて行く兵士や豪族達を引き留められなかったのは私のせいですけどさ

雪蓮「ブーツめーりん普通こは慰めの言葉じゃない？」

冥琳「お前を慰めても現実是不変ならないし慰めたらもっと落ち込むだろっ？」

雪蓮「へいへい、そのとおりですよ」

冥琳「拗ねるな、」

良かったいつもの姐さまだ

蓮華「結局は従うしかないと言っことですか？」

冥琳「そうですね、逆らっても対抗なんて出来ないでしょうし逃げても袁家を敵に回してまで庇ってくれる所なんてないでしょう」

雪蓮「そうね　でもそう考えると全員で行くのは良いわね
一矢報いる事位はできるでしょう」

冥琳「まあ、全滅確定だがな」

また戦狂いの血が騒いでるのか

蓮華「姐さま、せめて小蓮だけでも逃がせられないかな？」

あの子さえ残れば孫家は生き残れる

冥琳「無理でしょう、使者が持って来た書簡の名簿には孫一族のほ

とんどが乗っていました、乗って無いのは一歳に満たない赤子位です」

「どうやって調べたんだろう」

蓮華「そんな」

雪蓮「まっ、覚悟を決めて行くしかないでしょうなんとかなるわハハハ」

冥琳「それは雪蓮の勘か？」

雪蓮「そっ、凄く嫌な事であり嬉しい事でもあるでも不思議となんとかなりそうでもある」

冥琳「雪蓮の勘なら信じられるが何故そんなに不機嫌なんだ？」

雪蓮「わかんないわ勝手に物を決められたみたいでイライラするのまっ行ってみれば分かるでしょう」

冥琳「そうか、では全員に出発の準備をさせましょう」

〈数日前建業〉

呉郡の県令達から孫家に対しての書簡が届いた
簡単に言つと邪魔でやりづらいである

まあ自分たち一人分の兵力の十倍近い私兵集団がいるのだから当然である

桂花「やはり、孫家の存在は袁家にとって獅子心中の虫になりかねませんね」

田豊「そうじゃのう、孫家が官職についていればなにも問題ないのじゃが」

桂花「下手な地位を与えたら劉表が黙ってないでしょうね
いつその事反乱でも起こしてくれたら良いのに」

紀霊「確かにそうだがそこまで危険なのか？」

半年前に智様が連れてきた客将で腕がたつのだけど何を考えているか解らないし仮面を常に着けているから顔すら解らない

桂花「なに言ってるのよ紀霊、孫策は長沙からここに着くまでの間はほとんど兵を損なわなかったでしょう」

撤退戦が戦ではもっとも難しい事はあんたも知ってるでしょう
さすがに着いてからは食糧事情で兵士が減ったみたいだけど」

田豊「つまり孫策は孫堅の資質を受け継いでいると言っことじゃよ」

愛紗「つまり孫策は戦では江東の虎に匹敵すると田豊様と桂花は言うのですね」

桂花「そうよ」

そんなやつを腹にかかえた状態じゃ天下取りなんて出来ない。」

智「そうだなそのとうりだ」

だからそれをこれから変えてしまおうか

桂花、孫家に使いを出してくれ内容は　　だ」

桂花「畏まりました」

智「それと愛紗、孫家が来たら兵士十五万人を東門と西門と南門に五万人づつ待機させてくれ」

愛紗「お任せくださいご主人様　」

紀霊「！！孫家を潰すつもりですか！」

智「場合によってはそうなるな、まあ孫策が戦狂いなだけなら孫策は殺すさ、お前との約束は蓮華で果たすさ
それと紀霊、お前の剣を借りるぞ」

紀霊「　　クツ分かりました」

仕方ないここでこいつを殺しても私の身元が孫家だとわかれば袁家は総力を挙げて潰しに来る
今はこいつの言葉を信じるしかない

（半月後建業街外）

蓮華「もうすぐ着きますね、姐さま」

私達は今建業の郊外にまで進軍していた

雪蓮「ええあと少しね、それにしても非戦闘員を入れて二万人か
少なくなっただわね」

冥琳「だが残った兵の忠誠心は本物だよ
ンツ物見出ていた祭が戻って来たみたいだな」

祭「黄蓋」策殿」!!

大変ですぞ!!

「雪蓮」どうしたの祭?」

祭「どうしたの?でわありませぬ!!

建業にて約十五万の軍勢が待機しております!」

雪蓮「あらら

たいした歓迎ね袁術のやつ」

冥琳「どうするのだ雪蓮?」

雪蓮「どうもこうもない全軍に戦闘用意させて

祭!貴女は戦闘が始まったら蓮華と小蓮を連れて逃げて!」

祭「なっ ググツ分かり申した」

蓮華「嫌です姐さま!

私も闘います!」

小蓮「シャオも闘うんだから」

雪蓮「駄目よ、ここで三人とも死んでしまつては孫家が途絶えてしまつ

これは孫家家長としての命令よ!」

蓮華「クツ 分かりました」

小蓮「やだシャオは一緒に闘う！」

雪蓮「仕方ない 祭闘いが始まったらシャオを眠らして運びなさい」

祭「分かりもつした

御武運を

」

雪蓮「冥琳、何かある？」

冥琳「そうだな取り敢えず魚鱗の陣で当たろう

そのあとは各自バラバラに逃げよう」

雪蓮「そうねそれで行きましょう

まあなんとかなるわ」

孫家吸収前（後書き）

やっと始め書きたいと思った事が書ける

孫家吸収

（建業街外）

桂花「智様、孫一族がやって来ました」

智「よし、愛紗は準備して紀霊出迎えに出るよ」

愛紗「畏まりました」

紀霊「分かった」

智「やあー孫策殿よくいらした」

俺は孫軍の先頭を来た女性に話し掛けた

雪蓮「ええ壮大な歓迎ありがとう」

脅迫まがいの事をしといてぬけぬけと話し掛けた物ね

「それで孫家全員で来るようにと有ったけどどういっつもりでなの？」

智「はい、貴女方に対して各県令及び民から討伐の要請が有りましてね

貴女方には四個の選択肢があります

一つ 服役するか

一つ 我等と闘うか

一つ ここから逃げ出すか

「一つ 我軍に吸収されるかです」

冥琳「お待ちください！」

何故我等が討伐されねばならぬのでしょうか？」

智「分かりませんか？」

それは長沙から食糧等の軍事物質を盗んだ罪です！

貴女方は劉表殿の官軍から逃げてきた賊徒でしょう」

雪蓮「なっあれは長沙太守であつた孫堅に与えたら物でしょう！」

智「いいえ！」

違います、その物質は長沙の民の為に集められた物

その管理を孫堅殿が朝廷より任せられていたに過ぎません！

貴女方はそれを勝手に持ち出したつまり盗人です」

冥琳「ですがそうしなければ我々はここに来る前に飢え死にしてし

まいました！」

智「だからと言って盗みの罪を許せと言つのですか？」

それならそこらのこそ泥は全員無罪ですね

私は州牧としてそれらを見過ごす訳にはいきません！

さあ孫策伯符殿この場にて決めて貰おう！」

無茶苦茶な難癖だけと言つてる事は正論だしどうしよう？

雪蓮「客将としてなら降るわ！」

智「駄目です！降るなら孫策軍は完全に解体し袁家に再分配するでなければまた再興しようとするでしょう」

完全に孫家を潰すつもりね

なら近づいた袁術を殺しその混乱のなか徐州に逃げるしかない

雪蓮「分かったわ

これより孫家は袁家に従います」

智「良かった

孫策、英断してくれてありがとう、無駄な血が流れずに済んだよ」

フン、安心仕切った顔して近づいて来たなもう少し来たならその首は
ねてやる？

雪蓮「そっその剣はもしかや南海霸王!!」

智「ええそうですよ」

食い付いてきたな

雪蓮「返しなさい!その剣は孫家家長が持つ孫家の家宝なのよ!
なんでこいつが南海霸王を持っているのよ

智「嫌ですよ

でもどうしても言うなら剣で勝負して勝ったらあげましょ」

雪蓮「分かったわ!」

智「でわ負けたら孫姉妹には俺の子供を産んで貰おう」

雪蓮「ハァー!!」

蓮華「ナツ / / / /」

雪蓮「なんでそうなるの!!」

智「嫌ならいいんです

なんの危険もなく欲しいものが手に入るとお思いですか？
それとも母の形見はそんな価値ないと思いますか」

雪蓮「クツやってやるわよ

勝てばいいんでしょう！」

蓮華「そんな姐さま」

冥琳「不味いな雪蓮のやつ頭に血が上ってる」

今さら約束を反古出来ないそんな事すれば孫家の信用はなくなる

智「でわやりますか」

雪蓮「いくわよハア」

ヒューギン ドゴオ

雪蓮「かっはっ」ドサッ

蓮華「うっそ！」

祭「策殿が一撃で！」

智「これで俺の勝ちだな

約束は守って貰うぞ」

雪蓮「クツ ははは まっさか私が数合も持たないなんてね

約束だし守るわよ強い人は好きだしね」

袁家の跡継ぎを産めるなら蓮華やシャオに孫家を継がせれば良いわ

「ただ南海霸王だけは返して」

智「ん、元々返す予定だったしな
でわ紀霊返すぞ後賭けは俺の勝ちだなそれと仮面を外せ」

紀霊「ええまさかこんな公衆の全面での約束をさせるなんてね
確かに雪蓮は貴方の女になった貴方の勝ちね」

雪、蓮、小「かつかあさま！」

祭「堅殿よく無事で」

冥琳「虎蓮さま」

蓮華「でもどうして袁家にいるの？」

智「それはね蓮華

俺が虎蓮の命を助けたからさ」

蓮華「さつ智

そつかあさまを救ってくれてありがとう

それにしても貴方が袁術とは知っていれば最初から貴方を頼ったの
に」

虎蓮「なんだ二人知り合いだったのか」

智「ああ山賊に襲われ河に落ちていた所を助けたんだよ」

雪蓮「ええっそれじゃ蓮華が惚れた相手は貴方だったの!!」

蓮華「ねっ姐さま！」

虎蓮「それじゃ私は始めから勝ち目のない賭けをしていたのね
負けたのに気持ちいい負けね これは」

全員「八八八八八」

孫家吸収（後書き）

戦闘シーンがダメダメですいません

黄巾の乱前

（一年後建業）

智「もう少しで十八才か、早いものだな

それにしても今年も寒い日々が続いて田豊爺は大丈夫かな？」

田豊爺は近年の寒さに身体を壊し今は自宅療養中

愛紗「今まで頑張たのですから養生してほしいですね」

智「まっただな

ところで今年の内の収穫高はどうなりそうだ？」

桂花「はい

楊州、交州共に微量ながら増加です

この冷夏がなければもっと増えていたのですが」

智「仕方がないだが屯田や田圃を深くしたりしたのは効果があったな」

効果があつただと！

呑気な他の州では冷害の為に収穫高が五〇四割になつただぞ！

自分がどれだけ凄い事してるか自覚がないのか

冥琳「だが他の州では冷害の為に餓死者が出る位酷い有り様だそうであつたぶん賊徒と化しこの袁家領に押し寄せて来ますよ」

智「そうか その対策もしなければな

よし祭を主将とし三万で長江の警備に当たらせる交州の虎蓮や穩へ陸遜へにも伝えよ」

桂花「畏まりました」

愛紗「それにしてもこのところの冷害は酷すぎですね」

智「ああたぶん他の地域では大規模な内乱が起きるだろうな」
「ついに黄巾の乱が起きる年かな？」

冥琳「確実に起きますねよほど機転のきく太守ならともかく並みの太守は己の事のみ気にしますから民から無理に税を取ろうとするでしょう」

そうすれば払えなくなった民は難民になるか賊になるか反乱するからです

現に今荊州、徐州、青州、冀州では小さい反乱が起きているようですから」

智「んー各地の忍達にそういう情報を優先的に送るように通達してそれと軍も朝廷から要請があり次第動けるようにしといてあと難民の受け入れ体制を整えて細かい事は桂花に任せるよ」

桂花「お任せください智様」

万事つつがなくやってみせます」

雪蓮「ところで要請があつた場合誰がどこにどれ位の兵士を連れて行くの？」

智「荊州方面は愛紗と桂花で兵力は十万」

豫州方面は雪蓮と冥琳で兵力は十二万でだな

俺と蓮華と明命、周泰、と思春、甘寧はそれぞれ五万づつ率いて楊州で待機とする」

雪蓮「分かったわ
久しぶりに暴れられるわね」

智「冥琳、蓮華

主将は蓮華が勤めて雪蓮が暴走したら必ず罰せよ！」

雪蓮「なっ！智」

冥琳・蓮華「はい」

雪蓮「二人まで！」

蓮華「無茶をしなければいいんですよ姐さま」

冥琳「そつだぞ雪蓮」

雪蓮「うっ分かったわよ無茶しなければいいんですよ
フンだ」

智「さつ皆準備に取り掛かってくれ」

全員「畏まりました！」

黄巾の乱(前書き)

短いですごめんなさい

黄巾の乱

〈二ヶ月後建業〉

桂花「智様、やはり大規模な反乱が起きました

反乱者達は皆頭に黄色の布を巻いていることから朝廷では奴等を黄巾党と呼んでいるそうです

朝廷より鎮圧の命令が来ました」

智「黄巾党か 分かった

かねてから言っている布陣で討伐部隊を出陣させてください

いややはり俺が荊州に行きましょう 皇族の劉表殿に部下だけでは失礼に当たりますから桂花は楊州を頼みます」

桂花「分かりましたお任せください」

〈数週間後荊州南部〉

愛紗「ご主人様！

劉表殿より伝令で我等は長沙南部の城にいる黄巾党を殲滅してほしいとの事です」

智「ふむ…どの位の数だい？」

愛紗「使者が言うには五万人位だとのことですよ」

智「その二倍は居ると思っておけ

たぶん越族も居るだろうからな」

愛紗「ですとこちらの約五割増しですか？」

智「そうだ

まあ行ってみれば分かるだろう」

（長沙南部）

愛紗「ご主人様の言ったとおりでしたねさすがです」

智「ああ…外れて欲しかったがな

このまま当たったら此方の被害も馬鹿にならない　よし！愛紗
はこのまま三万を率いて前進軽く当てたら直ぐに引け

残りは部隊を三つに別ける一つは愛紗の右後方に潜んで賊が来たら
横撃を仕掛ける数は二万

一つは愛紗の左後方に潜んで同じく賊が来たら横撃を仕掛ける数は
三万人愛紗は横撃が始まったら反転して殲滅する

最後に俺が直率して左後方部隊のさらに左から回りこみ賊の後方か
ら襲い掛かる部隊は二万だろうからなただし騎兵のみの編成とする
以上だ」

愛紗「敵を釣り左右の挟撃で混乱したのちさらにさらに前後の迂回
挟撃を仕掛ける　賊に同情しそうですね」

智「しても良いが手は抜くな

抜けば迷惑は民にかかはるからな」

愛紗「手は抜きません！」

智「でわ 見事に賊を釣ってこい！

全員！編成を開始しろ！」

全員「ハッ！」

こうして荊州の黄巾党は殲滅して行った

豊帝崩御（前書き）

短いですごめんなさい

最近短くなってきてしまつてどうしよう

靈帝崩御

（二ヶ月後建業）

蓮華「ただいま戻りました」

智「お帰り蓮華、雪蓮、冥琳
豫州はどうだった？」

蓮華「はい

此方の被害はほぼありませんですが取り逃がしてしまつた残党が隣の済陰群で黄巾党本体と合流されてしまいました
本体の方は公孫贛や袁紹を始めとする諸侯連合に潰されたみたいで
す」

智「張角の首は誰が取つた？」

冥琳「陳留の曹操が倒したらいいのですが首は火の中で取れなかつたようです」

智「そうか 生きてるな」

原作同様に

桂花「はい

曹操が張角と取引したのでしょう」

蓮華「なんのために？」

「ばれたとき危険を考えれば普通やらないだろう」

智「兵力の充実と士気向上の為だろう

黄巾党が手に入り選抜して訓練すれば兵力は二十万近いからな」

蓮華「なるほど確かにそれだけの兵力が入るなら危険を犯す価値がありますね」

智「他には変わった事はなかったか？」

蓮華「そうですね

ああ曹操のところへ天の御使いと名乗る青年がいました
着ている服も見ただことのない生地で真名が無いそうです」

「刀は魏ルートか

よし！潰せるぞ

智「天の御使い？

占い師が言っていたあの？」

蓮華「はいあの噂の天の御使いです」

智「そうかまあいい

さて戻って来た兵士達に一時金を出して一週間位休息を取らせよう
後、戦死した兵士の遺族の手当てを頼むよ」

桂花「畏まりました」

ちなみにこの時の恩賞で袁紹は冀州州牧に

曹操はエン州州牧に

劉備は平原刺使に

うちは荊州南部の長沙、桂陽、臨賀、零陵、武陵をてにいれた

江夏も欲しかった

（半年後）

愛紗「たつ大変です！！」

たつ「た今都から急使が届きました！」

靈帝が崩御され劉弁様が即位され少帝になりました

ところが何進大將軍が十常寺に暗殺されその報復に何進派の袁紹様達が十常寺達宦官を皆殺しにしそのどさくさに袁逢様と少帝が殺されたみたいです！」

智様「！！犯人はどうなった？」

やべえ、忘れてた orz

愛紗「袁紹様により殺されみたいです

お悔やみ申し上げます」

智「ありがとうございます

麗羽はその後どうした？」

愛紗「冀州に引き上げた様です」

智「??？ 洛陽は誰が治めている」

愛紗「董卓殿が劉協様改め獻帝と治めています」

これが反董卓連合の始まりか

智「荒れるなこれは」

桂花「はい

なにもしていない董卓が一人勝ちをしている状態ですから
諸侯が黙っていないでしょう」

智「桂花

田豊爺に最後の仕事を頼むぞ、内容は　だ」

桂花「??　!

分かりました田豊様にお伝えします」

智「後は警備を覗いた全軍の出陣準備をさせておけ将も全員でるぞ
俺は洛陽で董卓に会って来る」

桂花「ぜつ全軍ですか?

総勢六十万になりますか?」

智「ああそれでも足りないかも知れないからな」全諸侯相手では負
ける可能性もある

桂花「分かりました」

智「では行ってくる」

対反董卓連合会議

〔洛陽執政官の間〕

詠〔賈馮〕「月!!」

大変よ、袁術が訪ねてきたわ

取り敢えず全將に集まるよう声をかけたから」

名門袁家の当主

楊州の狐とんでもない大物が来たわね

実働兵力は五十万を下らず配下には江東の虎や美髪公を揃える現漢

王朝の最大勢力

一歩間違えれば私達なんてすぐに潰される

月「詠ちゃん心ば

霞〔張遼〕「詠!

全將集合とはどないさたんや!」「へう」

華雄「いったいどうしたのだ?」

音々音〔陳宮〕「恋殿―っ急ぐのですぞ!」

恋〔呂布〕「ん」

詠「皆集まったわね

実はこれから楊州の袁術がやって来るの失礼の無いように対応してね
下手に対応したら私達は排除されちゃうから」

むしろ少し怒らせて天水太守に戻して貰うように仕向けるか?

詠「来たみたいね」

緊張する帝に謁見した時よりも

智「やあ月」

月以外全員「！！！」

華雄「貴様！」

月様の真名を勝手に言ったな！

万死に値する死ね！」

ドゴーン！！

智「あん？

知るかボケ！」

銀髪の女がいきなり斧を振り上げて来たから取り敢えずかわし拳骨
一発決めてやった

華雄「くっくっ！！」

智「月

お前は俺の事を何も説明して無いのか？
董苑様が草葉の陰で悲しんでるぞ」

月「へうへうごめんなさい智様」

詠「どういう事なの月？

説明して」

月から婚約の事とかを全部聞いた

私の心配は何だったんだらう

力が抜けて行くわ

智「ところでなんで相国に成ったんだ死ぬ気か？
それともそれすら解らないのか？」

詠「全部解ってるわよ！」

ただ 月が劉協様一人にして行けない言うから

智「なるほどね ただこのままいくと諸侯が連合を組んで襲ってくるぞ」

詠「それも解ってるわよ泗水関と虎牢関で防ぎきるしかない！
たぶん無理でしょうけど」

智「月は陛下から離れたくないのか？」

月「へうゝわつ私は離れても大丈夫でも劉協様は落ち込むでしょう
し」

智「ならば月

半年だけ陛下に我慢して貰えないか？」

月「半年位なら理由があればなんとか」

智「よし！月

婚約するぞ

それを理由に待って貰おう

あと月には太守の地位は捨てて楊州に来てもらうが

詠「ちつちよつと待って僕は反対だよ！

月に太守の地位を捨てさせるなんて！」

智「無理だよ

反董卓連合が組まれたらどうあがいてもそうなる
そしてそれを防ぐ手段がない」

詠「うっぐ

確かにそのとおりだけどさ

他に方法はないの？」

智「ないな！

あればお前が気づいてるだろ

もしくは戦で勝つしかないだがそれでは人が死にすぎる
月も嫌がるだろう」

月「詠ちゃん

もう良いよ私は太守とか相国とかの地位はいらないよ
ただ皆で笑って暮らせれば」

相変わらず無欲で優しいな

大半の者が出来ない事をさらっというてのける

智「ではお前達にやってもらいたい事は　　だ」

詠「分かったわ

確かにこれなら月は助かるし上手く行けば人はほとんど死なない」

これが楊州の狐か

霞「うちも賛成や

それにしても兄さんおもしろいこと考えるやん」

さつき華雄を捌いた動き武の方もなかなかやりそうやな後で手合わせ願おう

音々音「ネネも賛成ですぞー！」

恋コクコク

月「私も賛成です」

良かった智様は昔と変わらず優しい

智「そうか！

良かった

あと俺の事は智と呼んでくれ」

全員「真名を良いの？」

智「ああ共謀する仲間だし月が信頼してるなら信じられるからな」

霞「分かった！

うちは霞やよろしゅうに」

音々音「ネネは音々音ですネネと呼んでも良いですぞ」

恋「恋」

華雄「私は真名が無いので華雄と呼んでくれ」

詠「僕は詠だよ」

智「んっ皆ありがとう

それじゃ反董卓連合が結成されたらさっき言ったとつりに動いてね」

反董卓連合会議

↳ 数週間後陳留郊外

麗羽「袁紹」 オーツホツホツホ

たくさんお集まりになったわね

さあこの連合の盟主を決めましょうか」

華琳「曹操」 待つて！

麗羽まだ貴方の兄弟が来ていないわ」

麗羽「智さんなら来ませんわ

あの方は誘ってないのですもの」

華琳「なっなんですって」

この戦いで袁術の力を削がないと厳しいのに

それに諸侯は皆来ると思ってたみたいでざわついてる

麗羽「なんでって劉表さんが反対したからですわそれに私達だけでも十分にやれるでしょう

なんとたつて三・十・万からなる大・連・合ですわよ」

翠「馬超」 「西涼の馬騰が名代馬超だが

誰が来ようが来なかるうが関係ないだろ！

さっさと決めること決めて洛陽にいこう」

麗羽「そうですね貴方なかなか良いこというじゃありませんこと
でわまずこの連合の盟主ですけど誰かやりたい方はいらっしやいま
すか？よほどの名家でなければ纏まりそうにありませんことよ」

全員」

麗羽「それでは誰か推薦したい人はいますか？」

桃香「劉備」平原の刺使劉備です

私は盟主に劉表殿を副盟主に共同発起人の一人である袁紹殿を押し
ます」

麗羽「あらそれでは共同発起人である華琳さんの立場がないですわ
それに皇族の劉虞さんを差し置いて副盟主というのは」

華琳「私は別に構わないわよ」

むしろ麗羽以外やりたがらないでしょうに

劉虞「儂も異存はないぞ」

麗羽「お二人の了承を得ましたし他に異存のある方はいらっしゃい
ますか？」

全員」

麗羽「いらつしやらないようですわね

では盟主は皇族の劉表さんが副盟主はこの三國一の名門袁本初が勤
めさせていただきます」

劉表「でわまらずは

兵士「もっ申し上げます！」「どうしたのじゃ」

兵士「南方より軍勢が近づいてきます」

麗羽「変ですわね声をかけた諸侯は揃っているのに？」

華琳「ならばそれは敵でしょうに

旗は何？

どれくらいの人数？」

兵士「ハツ旗は黒地に銀で袁と赤地に黒の呂と赤地に白で孫です
数は約三十万以上です」

全員「なっ
」

劉表「馬鹿な！！

我らですら二十五万だぞ

一番多い袁紹殿でさえ五万だ
有り得ぬ」

華琳「いいえ

袁家ならあり得るわ

でも飛將軍呂布の旗が一緒とはどういふこと？」

兵士「伝令が来ました

これより袁術様、呂布様、張遼様がお越しになられます」

智「やあ皆さんお揃いで」

麗羽「呼ばれもしないのに何ノコノコいらしてるんですか智さん
もう盟主と副盟主は決まっていますましたわよ」

智「へえ麗羽誰がなつたんだい？」

麗羽「盟主は皇族の劉表さんが副盟主には私しが選ばれましたわ頭を下げるなら私しの下で連合にいれて差し上げますわよオーツホッホッホ」

智「いや連合に入りに来たんじゃないんだよ
そもそもこの連合は何が目的なの？」

桃香「洛陽で民を苦しめている悪漢董卓を倒すための集まりです！」

白蓮「公孫賛」
「ところでどうして呂布や張遼と一緒になんだ？
袁術殿は董卓についたのか？」

智「ついてはいないよ
この二人が一緒なのはね
帝からの勅命の監視さ」

劉虞「勅命ですと？」

智「ああではこの場にて読み上げるよ
告げる

天の御使いを偽称し臣民を惑わす北郷一刀及びそれを担いだ曹操孟徳は官位、私財を没収の上で国外追放とする
以上だ」

華琳「なんですってー！」

智「ちなみにこの陳留の城以外のエン州の城は別動部隊により占領
させてもらったから

軍を解散させないと曹操軍二万人を我等官軍は賊軍として四十万で潰すことになるよ」

華琳「あはっあはは

ちくしょう天の御使いの風評を上手く利用しようとしたらこれかよ
！！」

智「霞、つれて行け！」

霞「了解や」

智「あとこの連合は董卓が悪政を敷いているからの集まりと先ほど劉備殿が言いましたが

董卓は悪政を敷いていませんよ？

それどころか善政を敷いていると献帝はおっしゃるている

この連合の事を聴いて連合の盟主か副盟主もしくは発案者が国家転覆を狙っているのでわと恐れていらっしゃる」

全員「」

劉表「待て！

それは董卓と貴様が共謀して言っているだけであろう！

我等は貴様らの様な君側の奸を取り除く為に立ち上がったのだ」

全員「その通り、そうだ、そうだ、」

智「んっ安心しろ董卓はその事を聴いていて事実連合がそうであるなら全ての官位と領土を御返しすると言う話になっている

董卓が治めていた雍州は西涼の馬騰殿が治めてもらい

司隸は劉虞殿に治めてもらいました陛下の相談役をお願いします

またいま言った方の後の領地は後日猷帝が誰が治めるかを決めるそうです」

劉虞・馬超「畏まりました」

桃香「それでは本当に董卓殿は善政を敷いていたんだねでもこの連合は何のために集まったの？」

智「皇族なら帝位を」

それ以外なら董卓に代わって帝を操ろうとしたんじゃないかな」

麗羽「わっ私はそんなつもりありませんわ！」

劉表「儂とてそんな事微塵も考えてなかったわい」

智「二人共！」

州牧と言う国家にとって重要な立場のかたがその程度考えずに行動している事が問題ですたぶん官職は剥奪されるでしょう」

麗羽「キィーもうこうなったら冀州に戻り冀州袁家総力を挙げて戦いますわ」

智「無駄だ」

ほらこの竹菅を見てみな親父の代からの家臣はもとより冀州の太守達全員が袁家本家に降ったよ

田豊の説得でね

外にいる五万人のうちの何千人位が麗羽に従うかね？」

麗羽「終わった」

智「劉表殿はどうしますか？

獻帝の裁きを受けるかここで我等に殺されるか」

劉表「陛下の裁きを受けますじゃ」

こうして後漢末期の乱世は回避されたのでした

この時の恩賞で袁家は徐州と豫州を与えられ占領したエン州と吸収した冀州で漢帝国の過半数をしめ後に獻帝と結婚し讓位を受け国名を仲とし帝位につき愛帝と改めた

中華史上最も軍の血を流さなかつた謀略帝の建国の話であつた

ちなみに国名と名前の由縁は彼の仲間達がほぼ後宮に入った事による
月、恋、霞、華雄、詠、雪蓮、蓮華、小蓮、明命、思春、祭、穩、
冥琳、桂花、愛紗

以上十五人彼女らは十五女神将もしくは傾国の十五美姫と呼ばれ週に一回の割合で閨に呼ばれ彼が亡くなるまで続いた

愛帝へ袁術公路、真名が智

享年三十五才

死因 やり過ぎによる腹上死

反董卓連合会議（後書き）

取り除く完にさせてもらいました

もう少し良作を読んでからチャレンジしたいと思えます

この設定使いたい人が奇特にもいればどうぞご利用下さい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4004t/>

恋姫無双～謀将伝～

2011年6月13日19時20分発行